

発行 小布施まちづくり委員会
 会長 元田和行
 事務局 小布施町役場企画政策課 定住交流係
 編集 小布施まちづくり委員会広報委員会

2008(平成20)年12月18日創刊
 ©小布施まちづくり委員会



E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp HP: http://www.town.obuse.nagano.jp/

私が小布施に暮らすワケ

～放談会報告～

2月8日(土)に放談会「私が小布施に暮らすワケ」を行いました。小布施町に移住した皆さんの「どうして小布施は○○なの?」「小布施の○○が知りたい」などの疑問に参加者が答えたりする場として、また、移住した皆さん同士、また、それぞれが交流を深め、予定していた2時間目的に企画しました。参加者は4家族と少なかつたの



編集長のコラム 災害御見舞い
 未曾有の災害から早6ヶ月過ぎましたが、町内の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。1月末に県政ミーティング会議が北斎ホールで行われ、大勢の住民の方々が参加されました。災害対策について各自意見をカードに書いて張り出したり、また、グループによるワークショップ(写真)が行われ、災害から復興に至る対策課題を阿部知事や県の職員と市村町長等を交え意見を出し合いました。県と町の支援で関係する皆様も一日も早く復興されます事をお祈り申し上げます。



あなたも「まちづくり委員会」に参加しませんか!

様々な立場の人が自由に意見を交わし、住みよいまちづくりを考え実践する場として、平成20年にスタートしました。「安全」「環境」「福祉」「交流」「共有」「定住促進」の6つのテーマごとに部会を設け、月1回くらいのペースで集まって活動しています。そんなまちづくり委員会にあなたも参加してみませんか。参加をご希望の方は、下記事務局へお申し込みください。

小布施まちづくり委員会事務局
 Tel:026-214-9102
 Fax:026-247-3113
 E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp

- ・望ましい睡眠時間は小学生は9〜11時間。やはり「寝る子は育つ」は本当なんですね。(市村/共有)
- ・土手の越水や松川の回収、避難の訓練などこれからが修羅場かな。(塩尻/安全)
- ・新型コロナウイルス終息までには時間がかかります。うがいと手洗いが感染予防の基本です。(花村/福祉)
- ・春めいて参りましたが、朝晩はまだまだ冷え込みます。(見海/交流)
- ・ご自愛下さい。(工藤/環境)
- ・枝廣淳子さんが持ってきた成功例、住民力が半端ない。小布施はどうでしょうか。ポテンシャルはあると思えますが。(横山/定住)
- ・いよいよ春到来。土の菌たちも活発に動き出す季節です。菌たちと共に。(工藤/環境)
- ・暖冬と小雪で今年が始まり水不足と新型コロナウイルスの流行を心配しながら春を待つ。(安財/広報)
- ・「交流を考える部会」来年度の課題は、訪問先候補を大いに増やしたいことである。(内山/広報)
- ・温暖化の天候異変や新型コロナウイルスのウィルス感染、深刻劇場。(吉田/広報)
- ・なにやらいろいろ落ち着かない春ですが、はやくなんとかなることを祈っています。(奥田/広報)

編集後記

第7回「小布施まちづくり語り座」報告

1月24日(金) 公民館講堂

講師 飯沼 正治さん

元小布施町教育委員会社会教育主事/小布施町史編集(九〇頁) 葛飾北斎肉筆画研究/小布施町文化協会顧問

テーマ なぜ? 小布施か!

本日の講演の骨子は、「一つに小布施町の祖先には布施氏と小布施氏の兄弟がいたこと、および古くから日本国への文化は南方から来た」と言い伝えられているが、実は北方から入ってきた」ということである。因

みに、小布施町に現在小布施姓はない。一方で隣の須坂・長野市には二百名各余の人数が確認されている。小布施には古くから布施氏、小布施氏として、その後には仁科氏がいた。このことについては従来誰も論じ

たことはないが、結論を言えば、北信地方の文化は布施氏と小布施氏とによって開かれたと言える。しかしながら、両氏が如何にして北信地方に入ってきたかは定かでない、9世紀後半以後には信濃の奥地である小布施に少なからずの影響を与えている。北陸道筋から

は二つの道によって、信濃へ通じていた。おそらく両者とも、いずれかの方法によって、布施氏は、そして小布施氏は、それぞれ更級地方と高井地方に入ってきたものと思われる。これは別に越後に通ずる道がある。それは今の栄村の白鳥からの深坂峠越えの道によって直接中越地方へ出る道である。このルートは小布施氏が、大和朝廷に從って進出したことで、北越な



いし出羽地方への重要な経路であった。新潟県津南町に「外丸」という一風変わった地名がある。これは本来、「泊まる」、「止まる」という意味のトマリから出た言葉で、日本海側には「トマリ」という古い地名が多い。新潟、富山両県だけでも三島郡に寺泊、佐渡に赤泊、西頸城



郡野生町に小泊がある。このトマリが本州の内陸地帯にもある。長野県に限って見ても、千曲川の支流、依田川流域である小泉郡長門町に四泊りがあり、さらには大泊がある。いずれにしても、これらいくつもの線によって北陸の文化が信濃の北信地域に入り、大和朝廷の系統による開発が促されたということを考えないと、信濃の古代の歴史は解けない。そして、その後になって今度は南の方から、それを超えての開発と文化が入ってきたということになる。

最後に、一体の仏像が講師から紹介された。わずかに34センチのかわいい金銅仏である。清らかな童顔の美しさとなやかな体の曲線の美しさは、菩薩の慈悲の心の現れそのものといわれる。天平時代の作と推定され、現在この仏像は上田市の長福寺にあるが、本金銅仏はそもそも小布施町中子塚神社の土中から掘り出されたもので、現在はレプリカが近隣のお宅にて所蔵されている。一部の聴講者が実際に仏像の前にたずんで手を合わせたほどである。(文責:内山英行)

多文化交流のひと時

交流を考える部会が開催する年中行事の最後を飾るイベントである。毎年2月中旬に開催している今では欠かせない年中行事である。今年は、特に途中参加してくださった二胡奏者「龍幸福」さんの参加を得たことで、がぜん場が盛り上がり、二胡演奏と中国古来の曲である「草原情歌」を奏でいただいた。

作って味わうお楽しみのある。まずは水餃子の準備が始まる。ひき肉を主材料とし、もろもろの野菜を織り交せての準備に1時間ほどを費やし沸騰するまで水餃子を沸かす。沸騰したことを見極めた上で、3度ほど水を注入し、水餃子の仕上がりとなる。この間にも、一方では、タイのグリーンカレーの調理に余念がない。加えて今年、中国本土の饅頭とニラせんべ

いも加わったため大忙しのひと時であった。すべての準備が整い、テーブル上も綺麗に片づけられた後は待望の食事を楽しむひと時である。誰もがこの瞬間を楽しみに待っていたことが歴然としており、楽しい「おしゃべり」とお互いの自己紹介を兼ねての各目的の「自慢話」に花を咲かせる。

す」の上映会を企画しましたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、来年度へ延期となりました。5年3組のみなさんには、畑で学んだことを演劇で発表してもらおう予定でした。準備ありがとうございます。次回、楽しみにしてしますので、よろしく願います。

部会長 見海勝利

次世代への種時

栗方丘小学校4年生向けに生ごみリサイクル土作り、小布施丸ナスの栽培、今年度新たに丸ナスを使っておやき作りを実施しました。

共働」。この活動は、共育部会とうまく連携でき、子供たちの記憶に残る活動にきとなったと思っております。子供たちからは「ナスが嫌いなのは間違いない」「市販のナスに比べ美味しかった」など、うれし

い声も聞くことができました。来年度も引き続き実施しますが、保護者の方も参加できるように参観形式に変えていこうと計画中です。親子でのご参加をお待ちしております。

このような年間の活動状況を知らしてもらい、食の大切さを伝えたく、3月1日に食育映画『いただきます』

部会長 工藤陽輔

されたままです。その一部がテラソに置いてありますので、ご興味のある方は是非お読みください。

最後にこの講演会は長野県教育委員会、長野県立大学、須坂市、高山村教育委員会、小布施町社会福祉協議会の後援をいただき、町内の医療機関や子育て応援企業、団

体の協賛を受け実現することができました。応援していただいた多くの皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございます。

この様子は2月8日(土)発行の須坂新聞に、写真付きで大きく掲載されましたので、ご存知の方もいらっしゃると思います。



多くの人が集った講演会場風景

どの内容も脳の発達には親や周囲の大人の生活に大きく影響を受けるという根拠となっていることが分かりました。80名近くの町内外の皆さんの参加がありました。大人が学ぶ機会となりました。成田先生は睡眠の重要性等に関連した書籍を数多く出版

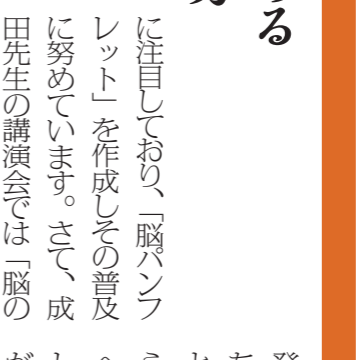
今日からはじめるよい脳の育て方

第8回おぼせ未来共育会議は2月11日に文教大学教育学部教授の成田奈緒子先生をお招きし、「今日からはじめるよい脳の育て方」講演会を行いました。

成田先生は小児科の医師でもあり、文部科学省や東京都教育委員会などで子どもの生活習慣を科学的に考える育児等の社会活動を行っていらっしゃいます。

に注目しており、「脳パンフレット」を作成しその普及に努めています。さて、成田先生の講演会では「脳の

発達には順序が大切」脳の育ちを家づくりに例えてみると土台づくりが重要、「人間らしい脳を作るには前頭葉へのつながりを作る」「望ましい睡眠時間」などの説明がありました。



環境部会では、ここ数年環境のことも含め、食や農のこころ活動の幅が広がっ

てきました。今、様々な環境問題がありますが、まずは私たちのできることから、次世代に安心して住める環境を残していきたいという、種時きしていきます。今後、絶賛部員募集中です。

部会長 市村良江

安心の町へ備えよう 避難訓練の大切さ

一年前半ほどにご講演をいただいたから再度のご登壇である。社会福祉協議会会場での先生のご講演はいつも以上に歯切れよく、50名余の参加者をしばしばうならせた。印象に残ったのは、「避難訓練の大切さ」である。地域のことはその地域に住む住民が最もよく知っているゆえに、この人たちの果たす役割が極めて

大きい、という現実も学んだ。その後の安全部会員との昼食会を含めて、災害を目的の当りに体験した直後だけに、学ぶところの極めて大きかった2時間近くのひと時であった。



10月14日 朝7時 小布施町 インターの越水



住民防災講座 2020年1月24日 廣内大輔教授の講演

部会長 塩尻利一

参加者からは、自分史を書くためには皆が集える場所と時間が必要との意見が多く、しばらくの間は自分



史講座を継続開催して欲しいとの事でしたので、前向きに検討していきたいと思

部会長 横山雄一

「小布施町民史2019」が完成

以前、福祉部会で開催しました「第2回自分史講座」

で、参加された方々の作品を集めた冊子「小布施町民

史2019」が完成。早速2月2日(日)に参加された方々にお集まりいただき、お渡しする事ができました。

部会長 花村一三

定住促進には何が必要か 当部会の最終目標は小布施町の定住人口を増やすことにあります。

南箕輪村では、優れた子育て支援や教育を実施すること、子供もたくさん生まれていますし、移住者もどんどん入ってきています。

藻谷さんには、小布施の人口が増えるためには小布施に住む人々が豊かになることが肝要であり、そのためには徹底して地域内にお金を循環させることである、ということについて語っていただきました。